

事例 25 新潟県新津市

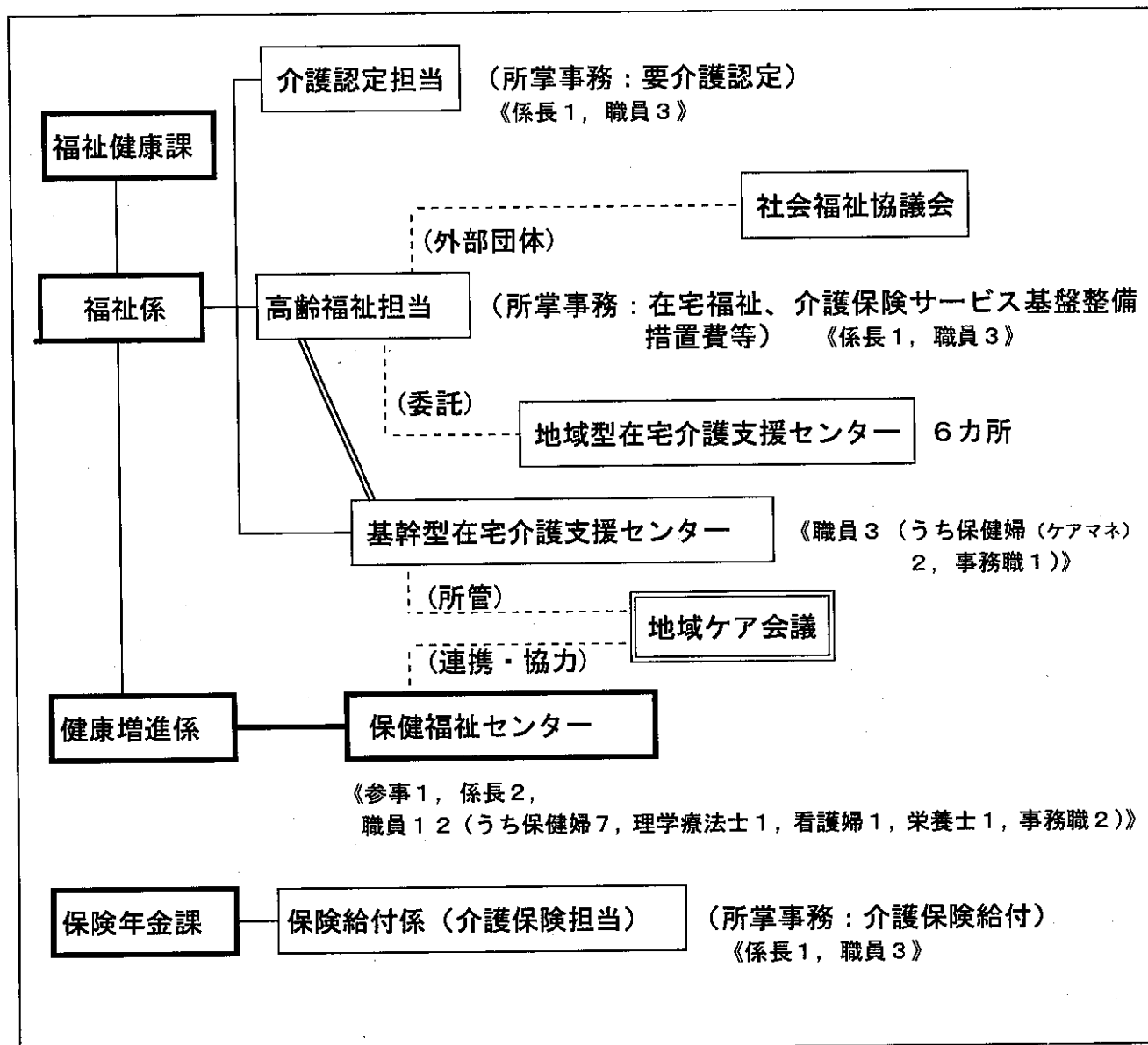
人 口	67,588 人
高齢者数	14,879 人
高齢化率	22.01%
担当部署	福祉健康課福祉係（新津市中央在宅 介護支援センター）

1. 市町村の概況

市町村の沿革・概要	<p>新潟県新津市は、東西に信濃川、阿賀野川の二大河川が流れ、南北にはこれらが育んだ豊かな越後平野と越後山脈北麓の新津丘陵が広がる恵まれた自然環境にある。</p> <p>明治から大正にかけて「石油のまち」「花とみどりのまち」「鉄道のまち」として栄えてきた。近年、JR新津車両製作所による最新型電車の製造や、SL定期運行などにより、かつての「鉄道のまち」が復活している。また平成14年4月には、新潟薬科大学応用生命科学部が開学を予定し、これを核として産・官・学が連携した「バイオリサーチパーク構想」の準備を進めている。構想の実現により農林水産業・食品産業の発展、環境の保全に大きく寄与するものである。「みどりの風薫り 笑顔ゆきかう ふれあい文化都市」。この将来像の実現のため、環境負荷の少ない循環型社会への転換を図りながら、地域固有の自然や文化を生かした豊かなまちづくりを進めている。</p>									
	人口 H14.12.31現在	67,588人			高齢者数(高齢化率) H14.12.31現在			14,879人(22.0%)		
世帯数 (21,242) H14.1.18現在	65歳未満の者のみの世帯 11,112			65歳以上の者のいる世帯						
				単独世帯 1,552	65歳以上夫婦のみの世帯 1,836			その他 6,742		
要介護認定(申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計	
	43 H13.12.31現在	40 H11.10~13.12	102	395	406	259	274	357	1,793 H13.12.31現在	
社会資源状況	指定居宅サービス事業所(か所数)	訪問看護 (4) 訪問介護 (6) 通所介護 (8) 通所リハ (3) 短期入所系 (4) その他 (2)								
	指定居宅介護支援事業所(か所数)	16								
	保健センター 在宅介護支援センター(か所数)	1 7 — 基幹型 1 地域型 6								
	介護予防事業の拠点となりうる場(か所数)(公的施設以外も含む)		公的施設 8 公的施設以外(地域の公会堂など) 76							
介護予防事業の担い手となりうる組織・団体(組織・団体数・人員数)		町内会 120 老人クラブ 81 いきいきサロン 21								

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



- ※1 職員配置状況や所掌事務等についてもご記入願います。
- ※2 市町村直轄以外の在宅介護支援センター等についても組織図に書き込んでください。
- ※3 地域ケア会議等についても組織図に書き込んでください。

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。 →問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、 県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、 対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機能訓練事業 <ol style="list-style-type: none"> 1 事業実施の根拠 国庫補助事業 2 所管部局 福祉健康課 健康増進係 3 事業内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業名 機能訓練事業 A型 B型 (2) 事業目的 障害や老化に伴い、心身の機能が低下している者に対し、その機能の維持回復をはかる。 (3) 対象者 A型—若年障害者、失語症の者(2会場) B型—概ね60歳以上で痴呆・転倒予防などが必要な者(3会場) (4) 実施回数 A型—月1～2回 B型—月2～4回 (5) スタッフ 理学療法士・保健婦・看護婦・ボランティア 栄養士・医師・歯科医師・歯科衛生士～随時 ● 訪問指導事業 <ol style="list-style-type: none"> 1 事業実施の根拠 国庫補助事業 2 所管部局 福祉健康課 健康増進係 3 事業内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業名 訪問指導事業 (2) 事業目的 心身機能の低下を防ぎ、健康の保持増進をはかる。 (3) 対象者 心身の状況・環境等に照らして、健康の保持増進のための保健指導が必要な者およびその家族

	<p>(4) 実施回数 個々の必要度に応じた回数</p> <p>(5) スタッフ 保健婦・理学療法士・看護婦・栄養士</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>(<input checked="" type="radio"/>) 行った (<input type="radio"/>) 行っていない</p> <p>↓ (具体的方法) ・個々の対象者ごとにスタッフがカンファレンスを行い定期的に評価を行っている。</p>

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質問項目	回答欄
<p>(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <p>・中心となった部局はどこか?</p> <p>・何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか?</p>	<p>・老人保健法施行時より、上記2事業を実施し、脳卒中後遺症・骨折などのため介護を要する者に対して、その機能の維持回復に取り組んできた。</p> <p>しかし、対象者はすでに何らかの介護を要する者であり、高齢者が増加の一途をたどる現状においては、要介護状態に陥らないための対策が急務というのが保健・福祉担当保健婦の間で一致した課題であった。</p> <p>国から介護予防・生活支援事業のメニューが示され、この事業にのり元気高齢者が要介護者とならないための、より積極的な事業の展開に取り組むことになった。</p> <p>事業実施にあたり中心になったのは、基幹型在宅介護支援センターで、保健担当の保健婦・理学療法士・栄養士、在宅介護支援センター、生涯学習担当職員、モデル地区住民などとの調整を行った。</p>
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。 今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか?</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか? ・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか? ・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか? ・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか? 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心となった部局 基幹型在宅介護支援センター ● 他の部局との協力体制 <ul style="list-style-type: none"> ①健康増進係・地域型在介センターとの協議 地区ごとの高齢化率、住民の要望、地区としての協力体制やリーダーの有無などを把握・分析し、3地区をモデル地区として選定。 実施は、保健担当部署・福祉担当部署および地域型在宅介護支援センターが協同する事を協議。 プログラム案の検討。 ②生涯学習課スポーツ振興係との協議 体育指導員の派遣・調整の依頼。 ● 地域住民の参画 <ul style="list-style-type: none"> ①各地区の区長へ事業の趣旨説明と協力依頼。 ②区長の賛同を得て、各地区の企画委員の選出。 ③地区ごとに企画委員打ち合わせ会を開催。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防事業についての趣旨説明 ・地域の高齢者の生活実態についての意見交換や介護予防に関する要望の聴取 ・事業プログラム案、周知方法などの検討 <p>今現在元気に暮らしている人たちが、これからも元気であるために必要なことを地域ぐるみでやっという意識を持っていただき、地区へのPRや教室運営にも積極的に参画していただいた。</p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズをどのように把握するか? (ニーズ把握の方法) ・事業対象者の選定方法はどうか? ・事業に従事する人材をどのように確保するか? ・既存の設備の利用が可能か? ・新たな設備整備が必要か? ・どの部局の事業予算をどの 	<ul style="list-style-type: none"> ● ニーズ把握の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の保健福祉事業の実施をとおしての把握 ・企画委員会での意見聴取 <p>※各種調査によるニーズ把握までは至らなかった</p> ● 事業対象者の選定方法 <ul style="list-style-type: none"> ・特別選定はせず、広く希望者を募る ・虚弱状態等で参加が望まれる者に対しては、個々に勧誘する ● 事業に従事する人材 <ul style="list-style-type: none"> ・市の職員と在介センター職員 ・高齢者の運動については、体育指導員の活用(非常勤) <p>※健康運動指導士等の専門職がないため、広域的な人材確保の対策が必要</p> ● 設備整備 <ul style="list-style-type: none"> ・新規の整備はしていない ・事業が終わっても住民主体の継続をめざしていたため各地区の町内会館等を活用 ● 事業予算 介護予防・生活支援事業—福祉健康課 福祉係で確保

ように確保するか？	
-----------	--

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数（週、月）、実施体制（スタッフ、研修）、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携（協力）体制 等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事業名 介護予防・生きがい活動支援事業 ア 介護予防事業（転倒骨折予防教室） イ 高齢者食生活改善事業 2 事業目的 ・高齢になっても要介護状態に陥ることなく、生き生きとした生活を続けていくことができる。 ・生きがいづくり、閉じこもり防止、ひいては地域全体の介護予防のための組織づくり。 3 対象者 ・概ね60歳以上の高齢者とその家族等 ・高齢化率が高い、住民の要望・協力体制がある等の条件から勘案し、モデル地区を3地区設定 モデル地区①：秋葉1～3丁目 モデル地区②：梅の木・小屋場 モデル地区③：田家1～3丁目 4 事業内容 ○転倒骨折予防、閉じこもり防止 ・健康チェック、易転倒性評価テストにより、自分のからだの状態の把握 ・生活や住居の改善対策の指導 ・転倒予防体操の実技、レクリエーション ・骨そしょう症の予防策の指導 ○食生活改善 ・食生活上の留意点の指導 ・バランス食、カルシウムアップメニューの試食 ○気道感染予防 ・かぜや肺炎の原因と予防策の指導 ・口腔ケアの具体的方法の指導 ○地域において、教室内容の継続実施と交流をはかるための組織づくり ※1コースを5回として上記の内容を組み立て、プログラムを作成。 5 開始時期 平成13年10月

	<p>6 実施回数 1コース5回×3地区=15回 (平成13年10月～12月の間で)</p> <p>7 実施体制 市が地域型在宅介護支援センターに事業委託するという形式だが、初めての取り組みということもあり、実際には共同で実施。 (スタッフ) 福祉担当保健婦・保健担当保健婦・理学療法士・栄養士 在宅介護支援センター職員 医師・歯科医師・体育指導員 町内の企画委員=町内会長・民生委員・老人クラブ役員 婦人会役員・ボランティア 母子保健推進員・食生活改善推進員等</p> <p>8 事業予算 ア 介護予防事業(転倒骨折予防教室) 540千円 イ 高齢者食生活改善事業 360千円 ※国1/2, 県1/4補助</p> <p>9 事業所管課 福祉健康課福祉係(新津市中央在宅介護支援センター)</p> <p>10 他課との連携(協力)体制 生涯学習課スポーツ振興係(体育指導員の派遣・調整)</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか? ※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>1 市の広報誌 2 町内回覧(趣意書・チラシ) 3 町内掲示板にポスター掲示 4 企画委員によるPRちらしの配布・声かけ 5 在介センター職員による個別訪問・声かけ (障害老人の日常生活自立度ランクJ、Aの人)</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄												
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数)</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>1 事業名 介護予防・生きがい活動支援事業 ア 介護予防事業(転倒骨折予防教室) イ 高齢者食生活改善事業</p> <p>2 講習会名 モデル地区①「秋葉元気でいよう会」 モデル地区②「梅の木・小屋場元気で長生き教室」 モデル地区③「田家元気で楽しくすごそう会」</p> <p>3 事業費 90千円</p> <p>4 年間実施回数 1コース5回×3地区=15回</p> <p>5 年間利用者数</p> <table border="1" data-bbox="654 1052 1356 1209"> <thead> <tr> <th></th> <th>実人員</th> <th>延べ人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モデル地区①</td> <td>39人</td> <td>124人</td> </tr> <tr> <td>モデル地区②</td> <td>50人</td> <td>182人</td> </tr> <tr> <td>モデル地区③</td> <td>66人</td> <td>212人</td> </tr> </tbody> </table> <hr/> <p style="text-align: center;">合計 155人 518人</p>		実人員	延べ人員	モデル地区①	39人	124人	モデル地区②	50人	182人	モデル地区③	66人	212人
	実人員	延べ人員											
モデル地区①	39人	124人											
モデル地区②	50人	182人											
モデル地区③	66人	212人											
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>1 住民の参画 ・企画段階から住民の参画を得たことで、より実態に即した事業運営が行えた ・自分たちの問題であるという意識が浸透し、事業を継続するための自主活動に結びついた</p> <p>2 関係機関の連携 ・保健担当部署・福祉担当部署および地域型在宅介護支援センターが協同して事業を行うのは初めての試みであったが、それぞれの役割や仕事の内容などをお互い知ることができ、有効であった。</p>												

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の参画を得ること、関係機関が円滑に連携できることを意識してすすめ、(問4)の成果を得られた。
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 真に要介護状態の人の増加率を抑えていこうとするには事業の参加人員をもっと増やしていかなければならない。そのための事業拡大をいかにしていくか。 ● 事業展開の方法として、行政担当者の実践事例や経験等に基づいた方法を中心とし、介護予防ニーズの社会調査・分析が不十分であった。 ● 数量的な目標値の設定と評価が行えなかった。
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 来年度の事業計画に向けて、全市的な介護予防ニーズの把握のため、何らかの調査・分析に取り組みたい。 ● 健康教育モデルに基づいた事業展開方法に、多少なりとも取り組みたい。

6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>(○) 行っている。→②へ</p> <p>() 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標 事業実施回数、参加人数、事業内容など ・評価時期 当年度事業終了後、あるいは年度末 ・評価者 行政、関係機関
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>していない</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<p>特になし</p>